

職場体験感想文コンクール2024

タイトル	人を笑顔にする仕事	事務局	115
学校名	酒田市立第一中学校	氏名	堀なつき

私の母は作業療法士だった。そんな話をしている母はきらきら輝いていてかっこよかった。私もそんなふうになりたいと思ったし、何より人を笑顔にする仕事なんて素敵だなと思った。昨年度から行っている総合の学習では作業療法士になるために祖父、祖母と一緒に手先の運動として折り紙や手芸をした。作業療法士は患者さんがやりたいことや好きなことを尊重することが大切だ。さらにその人にあったプログラムを考えることも重要となってくる。なので2年生になってからは祖父が四十肩だったこともあり、四十肩リハビリプログラムを作った。現状の肩の関節可動域を測ったり、四十肩を改善するためにどうすればいいのかを考え、運動方法をまとめたりした。まとめていく中で肩の関節可動域の正しい測り方、運動はどこまでしていいのか、などわからないことや知りたいことがたくさんあった。そこで、実際に働いている人たちにお話を聞いたり、アドバイスをいただきたいと考えた。

私が学ばせていただいたのは「本間病院」で働いている作業療法士の佐藤さんだ。「本間病院」には足を怪我したときにお世話になった。とても丁寧に接してくれて心地よかったのを覚えている。7月の中旬、私は今まで学んできたことや、質問したいことを準備して本間病院へお邪魔させていただいた。快く引き受けていただき、佐藤さんは真剣にメモを取ってくれたり、うんうんと頷いてくれたりと私の話を聞いてくださった。とても緊張していたが「ここまでしっかりできてるなんてすごい！驚いた」とおっしゃっていただき嬉しく、ほっと少し安心した。その後、佐藤さんにお話を伺った。肩の関節可動域の測り方として専用の定規を使って測ると教えてくださった。また、座った状態で測るのと寝かせた状態で測るのでは重力のかかり方が変わってくるため測る姿勢にも注意してね、それと着る服にも目を向けてあげるとアドバイスをしてもらえた。ほかにもよく担当する患者さんは認知症の方のようで、腕がいたいと言ってくるがそこ手首！だったり、リハビリ中にお箸を持っているのに箸をなくしたなどという面白いエピソードも聞かせていただいた。大変なことも多いけど患者さんと接すると楽しいしこっちも元気になるよねとおっしゃっていてとても感動した。また9月に訪問させていただいてもいいですかとお願いすると、もちろんです！お待ちしております！と笑顔で答えてくださった。

夏休み中、リハビリプログラムを作り直し、祖父に四十肩改善のリハビリをすることにした。目標は楽に服を着ることだ。佐藤さんからいただいたアドバイスを参考に肩関節を測った。座った状態では約100°、寝た状態では約120°しか腕を上げることができなかった。早く肩を直してあげたいという気持ちでいっ

ばいだった。緩めの服や前をボタンで閉めるタイプの服などを選んだり、運動では卓上で雑巾掛け運動をゆっくり10回、おもりを付けての振り子運動などをした。はじめの一週間はあまり変化がなかったが、夏休み最終日には座った状態で約160°、寝た状態で約180°まで腕を上げられるようになった。祖父は、腕を上げて痛くない！と言って服をスムーズに着ることができたとき喜んでいて、私もすごく嬉しくなった。そして身体づくりや運動法をもっと詳しく知りたいと思い、解剖学や運動学について勉強した。解剖学では主に脳について、運動学では主に肩関節について勉強した。インターネットで調べて過去問を解いてみた。本で調べながら解いてみても60点しか取ることができなかった。やはり難しい専門用語やわからないことが多く、もっと勉強をしなければいけないと思った。

9月、再び「本間病院」を訪問した。佐藤さんに作り直したプログラムや勉強したものについて見せると、夏休み期間も取り組んでたんだね、レベルアップしてる！と驚いていた。痛みってというのは自分にしかわからない、だからこそ私達が色々な方向からアプローチしてあげる必要がある、私の心に深く残っている言葉だ。この言葉を聞いてプログラムを作ったときやることばかりだったけれどやらないほうがいいことも考えることが大切だな、勉強も脳ではなく骨からしっかり覚えていかないとかなと思った。また、この日はリハビリ施設を見させていただくことができた。入ると目の前には患者さんたちみんなで折り紙をちぎって作った辰が出迎えてくれた。みんなで協力して作るのは素敵だなと思ったのと、ちぎって作るというのもハサミが使えない人でもできるのでいいなと思った。他にも料理の練習や、お風呂に入る練習ができるものがあった。あまり手に力が入らない人や箸を使うのが難しい人でも使えるような工夫がされている食器もあり、私も使わせていただいた。使いやすくてこれだと一人でも食事を摂ることができていいなと思った。私は家や学校にあるバリアフリーも調べたいとわくわくした。日常検査もやらせていただいた。3つの丸、4つの丸、5つの丸がばらばらにあり4つの丸に印をつけていくものだった。集中力、判断力が試されるそうだ。5分やってみて丸付けをすると見過ごしているものがあったて意外と難しかった。

そして、リハビリ施設を出るとき患者さんとあった。佐藤さんは笑顔で接していて患者さんも楽しそうだった。同業者さんの方と話すときもそうだ。優しい話し方でそこにも笑顔があった。技術も大切だが、人との関わり方も同じくらい大切だと思った。

今回の学習で、作業療法士になりたいとより一層思えた。そのために、普段から色々な方向から考えるくせをつけていきたい。また、接していて心地良いと思ってもらえるように笑顔で過ごそうと思った。私はこれからも作業療法士について知っていき、沢山の人を笑顔にできるような作業療法士になりたいと思う。